



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月8日

上場会社名 株式会社イントランス 上場取引所 東
コード番号 3237 URL <http://www.intrance.jp>
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)ディグネジオ・フレドリック・レッツ
問合せ先責任者 (役職名)管理部部長 (氏名)北川 雅章 (TEL) 03-6803-8100
四半期報告書提出予定日 2023年2月8日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	483	△78.5	△319	—	△317	—	△318	—
2022年3月期第3四半期	2,249	113.9	292	—	288	—	247	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 △322百万円(—%) 2022年3月期第3四半期 242百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	△8.59	—
2022年3月期第3四半期	6.67	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	1,354	862	61.7
2022年3月期	1,862	1,182	62.0

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 835百万円 2022年3月期 1,157百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,102	31.9	20	△89.3	17	△90.8	7	△94.9	0.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年3月期3Q	37,131,000株	2022年3月期	37,131,000株
2023年3月期3Q	60,400株	2022年3月期	60,400株
2023年3月期3Q	37,070,600株	2022年3月期3Q	37,070,600株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料3ページをご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が依然として見られる中、まん延防止等重点措置の全面解除により行動制限が緩和され、経済活動の正常化に向けた動きがみられました。また、水際対策も大幅に緩和され、政府の全国旅行支援や各自治体独自の観光支援策も再開し、経済活動に明るい兆しも見え始めております。その一方、米中対立やウクライナ侵攻の長期化に伴うエネルギー価格の高騰や急激な為替変動による物価上昇の影響もあり、個人消費の動向は今なお厳しい状況にあります。その他、中国のコロナ感染者の急増による景気への影響、全世界的なインフレ局面を契機とする景気後退への転換なども危惧され、依然として経済環境は先行き不透明な状況が続いております。

こうした中、当社グループが属する不動産業界では、資材価格高騰に伴う住宅価格の上昇や物価高による消費マインド低下などの影響はありますが、引き続き低水準にある資金調達コストを背景として投資家の投資意欲は旺盛であり、不動産市場は概ね堅調に推移しております。

また、当社が注力するホテル関連分野の市場におきましては、国内旅行は全国旅行支援などの景気刺激策による需要回復もあり、一部明るい兆しも見え始めております。一方、インバウンド需要については、外国人の新規入国制限の見直しなど、水際対策措置が見直されたことで回復基調にあるものの、中国本土からの旅行者の訪日が途絶えていることから、本格的な需要回復には引き続き時間を要することが予想されます。

このような状況の下、当社グループでは、創業からの主事業でありました「不動産事業」に加え、ホテル・宿泊施設等の運営、支援、開発等の事業を行う「ホテル運営事業」に軸足を置き、事業の整備と成長のための投資を進めてまいりました。また、当社の連結子会社である株式会社大多喜ハーブガーデンにおいてハーブガーデン施設の運営・卸売販売を行う「ハーブガーデン運営事業」、「その他の事業」として、連結子会社である瀛創(上海)商務咨询有限公司において国内インバウンド送客事業にそれぞれ注力してまいりました。

この結果、売上高は483,017千円(前年同四半期比78.5%減)、営業損失は319,553千円(前年同四半期は営業利益292,413千円)、経常損失は317,450千円(前年同四半期は経常利益288,259千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は318,392千円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益247,076千円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、セグメントを従来の「プリンシパルインベストメント事業」「ソリューション事業」から、「不動産事業」「ホテル運営事業」に変更しておりましたが、当第3四半期連結会計期間より、従来「その他」に含まれていた「ハーブガーデン運営事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。このため、前第3四半期連結累計期間との比較については、セグメント変更後の数値に組み替えて比較を行っております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(不動産事業)

不動産事業につきましては、当第3四半期連結累計期間において、主にプロパティマネジメントに注力しましたが、前年同四半期より販売用不動産の売上が大きく減少した結果、売上高は222,775千円(前年同四半期比89.2%減)、セグメント利益(営業利益)は19,392千円(前年同四半期比96.4%減)となりました。

(ホテル運営事業)

ホテル運営事業につきましては、自社ブランド、グローバルホテルブランドのサードパーティオペレーターとして、ホテル運営受託の獲得を目指し、建物賃貸借によるホテル経営、ホテル運営の受託、およびコンサルティング等に注力しましたが、国内旅行以外のインバウンド需要が回復に至っていない状況から、売上高は102,640千円(前年同四半期比249.2%増)、セグメント損失(営業損失)は111,447千円(前年同四半期は37,010千円の営業損失)となりました。

(ハーブガーデン運営事業)

ハーブガーデン運営事業につきましては、連結子会社の大多喜ハーブガーデンが運営するハーブガーデンにおいて、SNSによる集客や、国内における観光需要の回復を取り込む施策が奏功し、ハーブガーデン事業の売上高は、コロナ前の水準を回復し、安定的に推移しましたが、設備投資や修繕に関する費用が膨らんだ結果、売上高は157,601千円(前年同四半期比2.3%増)、セグメント損失(営業損失)は16,030千円(前年同四半期は2,335千円の営業損失)となりました。

(その他)

その他事業につきましては、中国からの国内インバウンド送客を担う連結子会社の瀛創（上海）商務咨询有限公司の送客事業において、事業の進展のない中、経費のみが発生し、前年同四半期、当第3四半期連結累計期間ともに売上高はありませんでした。なお、セグメント損失（営業損失）は26,944千円（前年同四半期は18,389千円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、流動資産は前連結会計年度末に比べ625,511千円減少し1,111,325千円となりました。これは主として、現金及び預金が691,758千円減少したこと等によるものです。固定資産は前連結会計年度末と比べ69,972千円増加し189,899千円となりました。これは主として、有形固定資産が38,711千円増加したこと等によるものです。繰延資産は、開業費が47,310千円増加し、53,042千円となりました。

この結果、資産合計は前連結会計年度末と比べ508,415千円減少し、1,354,267千円となりました。

当第3四半期連結会計期間末の負債につきましては、流動負債は前連結会計年度末と比べ154,328千円減少し175,752千円となりました。これは主として、未払法人税等が44,633千円減少したこと等によるものです。固定負債は前連結会計年度末に比べ34,655千円減少し315,868千円となりました。この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べ188,984千円減少し、491,620千円となりました。

当第3四半期連結会計期間末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ319,431千円減少し、862,646千円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月13日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,333,959	642,200
売掛金	31,354	50,543
販売用不動産	353,115	342,535
その他の棚卸資産	12,823	14,690
その他	10,065	64,274
貸倒引当金	△4,480	△2,920
流動資産合計	1,736,836	1,111,325
固定資産		
有形固定資産	40,886	79,598
無形固定資産	3,831	6,314
投資その他の資産		
投資その他の資産	248,209	263,987
貸倒引当金	△173,000	△160,000
投資その他の資産合計	75,209	103,987
固定資産合計	119,927	189,899
繰延資産	5,919	53,042
資産合計	1,862,683	1,354,267
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,437	6,510
1年内返済予定の長期借入金	52,425	48,540
未払法人税等	45,285	651
賞与引当金	8,562	893
その他	217,371	119,156
流動負債合計	330,080	175,752
固定負債		
長期借入金	311,394	278,100
資産除去債務	30,111	30,211
その他	9,018	7,556
固定負債合計	350,524	315,868
負債合計	680,605	491,620
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,133,205	1,133,205
資本剰余金	903,204	903,204
利益剰余金	△873,201	△1,191,534
自己株式	△2,476	△2,476
株主資本合計	1,160,731	842,399
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△3,157	△7,181
その他の包括利益累計額合計	△3,157	△7,181
新株予約権	24,504	27,428
純資産合計	1,182,078	862,646
負債純資産合計	1,862,683	1,354,267

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	2,249,574	483,017
売上原価	1,534,830	209,223
売上総利益	714,744	273,794
販売費及び一般管理費	422,330	593,347
営業利益又は営業損失(△)	292,413	△319,553
営業外収益		
受取利息及び配当金	19	7
受取保険金	4,899	—
為替差益	3,556	7,503
受取遅延損害金	238	6,043
その他	4,135	2,659
営業外収益合計	12,849	16,213
営業外費用		
支払利息	6,081	3,217
資金調達費用	2,689	72
和解金	8,232	—
開業費償却	—	10,608
その他	—	212
営業外費用合計	17,003	14,110
経常利益又は経常損失(△)	288,259	△317,450
特別利益		
新株予約権戻入益	1,000	800
特別利益合計	1,000	800
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	289,259	△316,650
法人税等	44,160	1,742
四半期純利益又は四半期純損失(△)	245,098	△318,392
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,978	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	247,076	△318,392

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	245,098	△318,392
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△2,367	△4,023
その他の包括利益合計	△2,367	△4,023
四半期包括利益	242,731	△322,416
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	244,709	△322,416
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,978	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	調整額 (注)2	計 (注)3
	不動産事業	ホテル運営 事業	ハーブガーデン運 営事業	計			
売上高							
顧客との契約から 生じる収益	2,028,749	29,395	154,074	2,212,219	—	—	2,212,219
その他の収益	37,355	—	—	37,355	—	—	37,355
外部顧客への 売上高	2,066,105	29,395	154,074	2,249,574	—	—	2,249,574
セグメント利益 又は損失(△)	532,205	△37,010	△2,335	492,858	△18,389	△182,055	292,413

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に上海における国内インバウンド送客事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、報告セグメントに帰属しない本社の費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)の合計は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	調整額 (注)2	計 (注)3
	不動産事業	ホテル運営 事業	ハーブガーデン運 営事業	計			
売上高							
顧客との契約から 生じる収益	206,096	102,640	157,601	466,338	—	—	466,338
その他の収益	16,678	—	—	16,678	—	—	16,678
外部顧客への 売上高	222,775	102,640	157,601	483,017	—	—	483,017
セグメント利益 又は損失(△)	19,392	△111,447	△16,030	△108,086	△26,944	△184,522	△319,553

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に上海における国内インバウンド送客事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、報告セグメントに帰属しない本社の費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)の合計は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、ホテル運営事業の本格的な展開、経営管理体制の実態の観点からセグメントについて再考した結果、報告セグメントの区分表示を「プリンシパルインベストメント事業」「ソリューション事業」から、「不動産事業」「ホテル運営事業」に変更しておりましたが、当第3四半期連結会計期間より、従来「その他」に含まれていた「ハーブガーデン運営事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。